

取手駅前開発とまちづくりシンポジウムにあたって

～戸頭から取手市政を考える会より～

2024・5・18

戸頭から取手市政を考える会 竹内有子

(1) 初めに……私たちの会のこと

○母体は2020年「戸頭北保育所の存続を願う市民の会」

- ・戸頭北保育所の廃止撤回を求めて請願署名運動に取り組み、7,181筆の署名が集まるも、願いは通らず廃止決定

○この運動の中で学んだ市政の実態

- ・市の財産である公共福祉施設の廃止にもかかわらず、地域住民には一切の説明も無く廃止ありきで話が進められたこと。保護者への説明も廃止ありきの説明で、一方的に説明。
- ・廃止の主な理由は、老朽化した保育所にはお金は回せないということ、つまりは市にはお金が無いということが大きな理由。(各議員を回った時に口をそろえて言っていました。)

○その後「このままで終わりにできない」「黙っていない市民になろう」ということで、この会を発足。市政を注視していこう。ニュースを届ける活動。

- ・2021 4月「取手駅西口開発」市の出前講座 参加34人
5月 シンポジウムに会として参加
- ・2022 5月「公共施設のこれから」市の出前講座 参加30人

(2) 2024・4月 少し休んでいましたが会を再開

○広報とりで 3・15 付の記事をめぐり急遽、話し合いを持ちました。(話し合ったこと)

- ① 駅前開発は取手市全体の問題なのだから、地権者の声だけでなく、もっと市民の意見をひろく丁寧に聞いてほしい。必ず説明会を持ってほしい。トップダウンで決めないで。
- ② 市はお金が無いという理由で保育所を廃止した。駅前がきれいになるのはいいことだと思うが、市の財政をそこにつぎ込み、他のところはまた、お金が無いからできないでは困る。駅前だけでなく市全体のインフラや福祉環境を向上させ、みんなが住みやすい取手市に心を砕いてほしい。

周りのリボンビルやアトレはガラガラなのだから、活用していくことも考えて、市の

持ち出しを極力抑える方向を模索してもいいのでは。

- ③ 駅前に図書館を移転させるという計画が出されているが、私たち戸頭の地域として、一番心配なことは、大きな立派な図書館ができたなら、公民館にある戸頭図書室を縮小したり、無くしたりしないかということ。(市は公共施設の床面積を27%縮減する計画を出しているため) 他の地域の公民館図書室にも言えること。公民館の図書室は歩いて行ける距離にあり、親子で一緒に行けたり、毎日通っている方もいたり、小さな子どもたちに読み聞かせを行ったり、大事なコミュニティの場。駅前に大きな図書館ができて、駐車料金を払ってわざわざ行く人は少ない。駅前をきれいにすると同時に、地域の公民館や図書室も、合わせてきれいにしてほしい。

- ④ 私たちのまちをどうしたいのかを地域ごとに、一人一人が考えることが大事。

○5・11「議員との意見交流会」に参加を呼びかけ、会から13人ほど参加

(3) 今後の運動 今日のをを受けて考える